香取遺産

◀御城史の碑

vol.169 御城城跡

御城城跡は、栗源地域の西田部区に所在する中世の城館跡です。太平洋に注ぐ栗山川を望む台地にあり、古くから西田部区の集落が広がっています。

城跡は、単郭構造で郭・腰曲輪・露台・塚が保存されています。塚には、西田部区、西田部郷土史会によって昭和58年に「御城史」の碑が建立されました。

碑文には、「御城史　嘉応年間(1170年ごろ)千葉氏郎党田部次郎師時がここに城を築くとするも里伝衰え確証することはできない。しかし田部郷内19戸が師時の配下であった。源平争乱後、源氏兄弟が争った時、義経に親しい片岡常春の海上郡佐貫城(現在の旭市)を頼朝麾下の千葉常胤が攻めた時、常春に属する師時は討ち死にをした。時に文治3(1187)年9月18日。貞応元(1222)年千葉一族が再びここに城を築いたと云う。後、北条氏の領有となり天正末期(天正年間は1573～1591年)北条氏と共に城は滅亡した。城跡に貞応の古碑があり、明治以降消失したが、大永元(1521)年に築かれた塚があり、里人はこれを姫塚と称し往時の領主の姫を葬むりし墳墓と伝える。城域は東西150間、南北120間と云う」といった内容が記されています。

栗源町史にも「御城址」として記載があり、領主の姫を祀った姫宮神社の創建や田部氏の菩提寺である西光山延命院地福寺についての記述もみられます。しかし、師時が主筋である千葉常胤が攻めた片岡常春側であったとの記述はありません。いつか里伝が絶えてしまう前に碑文として地元に残したことは、大変意味があります。

保存されている城の遺構は私有地のため、訪れる際は事前に問い合わせください。

問 生涯学習課 ☎(50)1224